



1. 長い距離でも仲間と一緒に笑顔で歩く。高低差もなんのその / 2. きれいに咲いたポピーなどの花が参加者を応援 / 3. 女神の明神様に手をあわせる。お願い事はいつまでも健康にいられますように / 4. たくさん歩いた後はストレッチ。空気が美味しくて芝生に寝転ぶと気持ち良い。

## 「緑があふれる 笑顔もあふれる」

4月29日(祝)、月舘町で花花チャレンジウォークが開催されました。交流館もりもりに集合した参加者は、七ツ森林道の一部を通り、女神山の麓にある女神の明神様を目指して、楽しくウォーキングしました。10<sup>キロ</sup>の長距離ウォーキングでしたが、伊達の自然を満喫しながら歩き、参加者全員が無事完歩しました。参加者からは「自然豊かな伊達市で野草を見ながら歩くのが楽しかったです」といった声が聞かれました。市外からも多くの人が参加した本イベント。季節によってさまざまな顔を見せる風景を楽しみに、ぜひまたお越しください。



### 市長コラム 第66回 「スマート農業」

過去の  
コラム



須田 博行

現在、日本の農業従事者数は、担い手不足と高齢化により過去20年間でほぼ半減しました。今後10年でさらに半減するとの予測もされています。農業従事者の減少は、耕作放棄地を増加させ、農業生産量を減少させ、ひいては国内自給率をさらに低下させます。また、景観や生態系を損なわせるだけでなく、災害発生のリスクも高めます。まさに生命や財産に危険を生じさせてしまうこととなります。

それでは、なぜ農業は、他の産業と比べて後継者不足となるのか。農業には専門的な知識や技術が多いためマニュアル化が難しく、次世代に継承されにくい問題があります。若者や女性などさまざまな人が参入するためには、農作業を楽にすることや、経験の少ない人でも取り組める環境を整えることが必要です。そのため「スマート農業」という考え方が始まりました。

スマート農業は、生産現場の課題をロボットやAI、ICT※<sub>1</sub>、IoT※<sub>2</sub>など先端技術で解決す

る農業のことをいいます。例えば、ハウス内の温度・湿度・二酸化炭素濃度や、土壌中の水分量・養分量などをセンサーが自動で計測し、AIがデータを解析しシステムに命令することで、作物に最適な環境を創り出します。また、人工衛星からの位置情報を受信したロボットトラクターが自動走行で田畑を耕します。

このスマート農業が最も進んでいるのが高知県です。去る4月18日に市では、高知県から二人の講師を招き、「経験と勘からデータへ」をテーマに講演会を開催しました。みんなでデータを共有し、品質アップと収量増を実現しているとの紹介があり、スマート農業の必要性を強く感じました。

「農業」×「先端技術」＝「スマート農業」が、夢のある農業を創り出す方程式だと思います。全国に誇れる伊達市の農業をさらに発展させるため、このスマート農業の取り組みを前に進めていきたいと思っています。

※ 1.Information and Communication Technology の略。通信技術を活用したコミュニケーションのこと。

※ 2.Internet of Things の略。身の回りのあらゆるものがインターネットを介して通信すること。